

## 第 19 週

質問 50. なぜ「神の右に座したまえり」と付け加えるのですか。

答え I キリストが天に昇られた目的のためです。キリストはすべての万物を統治なさる父に、<sup>01</sup>よってそこでも、ご自身が教会の頭として、<sup>02</sup>おられるのです。

① キリストが天に昇られたことと、神の御座の右に座しておられることを区別するのは、その重要性のためです。二つの事件は分離することはできませんが、区別はできるのです。キリストが昇天なさったのは、神の御座の右に座するためであり、神の右に座しておられるとは、キリストの高貴な栄光を現すことです（黙 5:3）。

それは、高い地位に座しておられるとは、栄誉を得られたという意味と同じです。父が、キリストは主となられることを示すことです（ペリピ 2:9-11）。特に、右に座しておられるとは、栄誉をお与えになったという意味ですが（I 列王 2:9、詩 45:9）、一番、優れた御力とキリストの威厳を現わしていることです（ヘブル 8:1）。これは、旧約と新約において、天の御座に対する幻からも確かに示されています（I 列王 22:19、イザヤ 6:1、黙 7:10）。

---

01 マタイ 28:18、ヨハネ 5:22-23.

02 エペソ 1:20-23、コロサイ 1:18.

② キリストが、神の右に座したまえりと表現していますが（コロサイ 3:1）、座しておられるとは、休んでおられることを内包します。つまり、キリストのすべての労苦に対して、神が認められたということです。また、主観者であり、法的審判を移行なさる方として、キリストの実際的職務を現します。王が、国の行事を主観なさる時、王座に着かれているのと同じ意味です（詩 9:4）。

さらに主として、キリストの職務を継続しておられることを意味しますが（ルカ 1:33、詩 16:5）、贖いの働きを行われています。ステパノの場合は、キリストが神の右に立っておられるのを見たのですが（使徒 7:56）、これは、キリストがステパノを助けるための準備が整っていることを意味し、王として、ご自身の敵らを裁くためなのです（イザヤ 3:13）。

③ すべての万物を統治なさる父が、キリストを特別に教会の頭として定められたことを現しています。父なる神は、キリストを通してすべての万物を支配なさいます。キリストが教会を統治し、治めておられます。これは、キリストの昇天した後、使徒たちの重要な教えです（使徒 2:23, 36、エレミヤ 5:31、I コリント 15:25、エペソ 1:20-23）。使徒たちは、キリストの統治を明確に教えました。私たちの体の肢体が頭によって動いているように、キリストが教会を治め、統治なさっています（コロサイ 1:18、エペソ 1:22）。

キリストは、聖霊と御言葉によって教会を支配し、統治なさいます。キリストが教会を治めるとは、その御心と思いが実現されることです。従ってまことの教会は、キリストの支配と統治が明白に現れます。人々の考えと思いと主張が貫通するのではなく、主の御心に屈服され、キリストが統治していることが明確に現われることです（エペソ 1:22）。

神の御心をだれよりも良く知っていると言いつつも、神の贖いの計画とイエスさまを断った祭司長たちとパリサイ人、また、ユダヤ人の姿は、自分たちの考えと計画によって主に屈服しなかった場合です。彼らは、自分自らの理解と考えと目的に従って神の御心に屈服しませんでした。このような姿は、今日の教会の中でも、いくらでも表れている現象です。神の御心だと言いますが、

人間の心を成就させようとするすべての事々が、ここに該当されます。このような醜い試みの結果は、恐ろしい審判だけです。

④ 父が、キリストをご自分の右に座らした理由は、この世と教会を治め、統治させるために、すべての権威をキリストに与えるためでした（マタイ 28:18）。神は、キリストを通して、世のすべてを支配し統治し審判なさいます（ヘブル 1:3, 2:7, 8、エペソ 1:20, 21、ヨハネ 5:22）。キリストのこのような統治は、私たちを謙遜にさせます。キリストに屈服され、その支配に徹底して服従させることです。しかし、キリストを知らない人々は、キリストの支配を断り、あざ笑い、蔑視します（詩 2:1-3、ヨハネ 10:3）。

**質問 51. 私たちの頭であるキリストの栄光が、私たちにどのような益をもたらしますか。**

答え I 第一に、キリストは、その聖霊を通して、ご自身の肢体である、<sup>01</sup> 私たちのうちに、天からの諸々の賜物を注ぎ込んでくださいます。そして、その御力によって、すべての敵から私たちを守り保護して<sup>02</sup> くださいます。

① たとえ、キリストが私たちの目には見えないけれど、聖霊によって私たちの中に住まわり、さらに緊密な交わりをなさいます。キリストは聖霊を遣わすことを約束し、五旬節に聖霊を注いでくださいました。彼は、聖霊によってご自身の肢体たちに天の賜物を注ぎ込んでくださいます。

---

01 使徒 2:33、エペソ 4:7-12.

02 詩 2:9, 110:1-2、ヨハネ 10:27-30、黙 19:11-16.

聖霊の御業には、二つがあります。第一は、教会の働きと機能のために与える賜物です。聖霊の賜物はとても多様ですが、このように、多様な聖霊の賜物は、教会の徳を立てるためにです。聖霊の賜物を教会に与えるのは、聖霊の一般の働きです。もう一つは、私たちの救いの恵みのために与える賜物です。父が、キリストのために、選ばれた者たちに聖霊を与え、彼らが福音説教を聞く時、罪に対する覚醒と回心が起こるようにさせます。これは、救いの御業のために必要な聖霊の特別な働きです。

## ② キリストはこの地において、聖徒の敵たちから聖徒を保護します。

第一、キリストは私たちの肉적인ことでも（ロマ6:4）教会を保護します。教会が肉적인者たちによって主観される時、教会の靈적인特性は現れないで、とても肉적인教会になってしまいます。サルデス教会の場合、外的には評判も良く事業も多く広めたが、肉적인者たちが教会を主観したことで、主は、死んでいる教会だと責められました（黙3:1以下）。キリストはこのような教会に警告なさり、悔い改めを要求します。キリストの教会だからです。

第二、キリストは、世からの迫害と抑圧から教会を区別させ、保護します（ヨハネ16:33）。父の御座の右に座しておられながら、聖徒たちに、信仰と勇気と慰めを与え、迫害と抑圧を克服させます。一方では、世俗化される教会を責め、警告し、世の原理が教会を支配しないように干渉します。ご自身の聖徒を聖く保たせるためです。

第三、キリストは悪魔から教会を保護します（ロマ16:20）。悪魔は教会を倒すためにあらゆる戦略を使い、特に、偽りの教えによって教会を腐敗させようとします。しかし、キリストは、神の真実なしもべを立て起こし、真理を正しく教えさせることで教会を保護します。また、キリストは、終わりの日に裁き主として、その民をすべての敵から保護します（イザヤ19:1）。

## 質問 52. 生ける者と死ねる者とを裁くためのキリストの再臨は、私たちにどのような慰めを与えますか。

答え I 私があらゆる悲しみや迫害の中でも、天を仰ぎ見、私のために神の裁きに自らを差し出し、私が受けるべきすべての呪いを取り去ってくださった<sup>01</sup>、まさにその裁き主が天から来られることを待ち望むように、です。この方は、私の敵を永遠の刑罰に投げ込まれる一方、私を、その選ばれた者たちと共に、天の喜びと栄光の中へと迎え入れてくださるのです。<sup>02</sup>

① キリストは昇天なさり、神の御座の右に着座することで、ご自身が教会の頭として、すべてを主観なさる主であることを現しました。キリストは、世のすべての人々の前に再び来られご自身を現すでしょう。この時、キリストは、生ける者と死ねる者との裁き主として来られます（使徒 10:42）。その方は、天からおいでになります（マタイ 26:64、使徒 1:11）。すべての栄光の中で私たちの目で見られるようにおいでになります（マタイ 25:31、I テサロニケ 4:16、ヨハネ 19:37）。

② キリストは裁き主として来られます。父なる神は、最後の審判の実行を子に委ねました（使徒 17:31、ヨハネ 5:22,27、黙 19:1-2）。すべての理性的な被造物は、この審判に召喚されるでしょう（I コリント 6:3）。罪を犯した御使いたちも裁きを受けるでしょう（II ペテロ 2:4、ユダ 1:6）。死んだ者たちも再びよみがえられて審判台の前に立たれるでしょう（使徒 17:31、マタイ 25:32、黙 20:12-13）。つまり、すべての人が、この審判台の前に立つようになります（II コリント 5:10）。そして、厳格でありながら、徹底した調査が、特定な書物によって施行されるでしょう（黙 20:12、ダニエル 7:10）。

---

01 ルカ 21:28、ロマ 8:22-25、ピリピ 3:20-21、テトス 2:13-14.

02 マタイ 25:31-46、I テサロニケ 4:16-17、II テサロニケ 1:6-10）.

審判の原則によって、異邦人は、自分たちの心にあった法（良心）によって判断されるでしょう（ロマ 2:12, 15）。ユダヤ人は律法によって（ルカ 16:29、ロマ 2:12）、名ばかりのキリスト者（名目上のキリスト者）は、彼らが聞いた福音によって裁かれるでしょう。<sup>03</sup>

③ 神の民たちの慈悲の行為が現れるようになるでしょう。敬虔でなかった者たちも、また、自分たちの悪行に対しての説明をしなければならないでしょう。彼らが、当然、行うべき義務を行わなかったことと、行為によって犯した罪と考えによって犯した罪が、すべて裸のように表れるでしょう（I コリント 4:5、マタイ 12:36）。

罪の定めには至らないけど、悔い改めなかった聖徒たちの罪も言及されるでしょう。神の公義が全天下に現われるようになり、命の書によって、神の選ばれた民が知られるようになるでしょう（黙 20:12）。そして敬虔な者と悪者、あるいは、敬虔でなかった者とを分離されて、敬虔な者はご自分の右側に、悪者には左側にいるようにさせるでしょう（マタイ 25:32-33）。

その次に、正しい者たちに、神の国を相続しなさいという宣言が施行されます（マタイ 25:34）。そして、左側にいた者たちには呪いが宣言され、永遠の火に入れと命令なさるでしょう（マタイ 25:41）。神の審判は、すでに歴史の中で予表として実行されて来ました。洪水の審判（創 6-7 章）、ソドムとゴモラに対する審判（創 19:4）、エジプトでの 10 の災い、AD 70 年のエルサレムの滅亡（マタイ 24 章、ルカ 21 章）などが、直ちに、それらの例です。

④ このような審判は、とても公正に行われ（I ペテロ 1:17、黙 6:15-17、ルカ 23:30、使徒 17:31）、審判について全然予想もしなかった悪者たちには、厳しく恐ろしいことになるでしょう。

---

03 彼らは聞きはしたが、決して福音に屈服しなかったことに対する審判です（ヨハ 3:36、12:48）

彼らは神を恐れもせず、罪を軽く扱い、罪の中にいた者たちだからです（マラキ 2:17、詩 50:21）。しかし義人たちには慰めになるでしょう。なぜなら、神は、彼らの行いに従って賞を与えるからです（ロマ 2:5-6）。聖徒にとって裁きの日は新しくする時となり（使徒 3:19）、贖いの日となり（ルカ 21:28）、義の栄冠を受ける日です（Ⅱテモテ 4:8）。

従って、苦難と悲しみと迫害の日々の中にあっても、裁き主として再び来られるキリストを待ち望むことは、私たちに大きな慰めを与えます。キリストは、これらによって、ご自分の民を慰めました（ルカ 21:28）。従って、この日を待ち望むことです（Ⅱペテロ 3:12）。裁き主であるキリストは、ご自分の民を天の栄光と喜びの中へと移してくださるからです。